

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 川口戸塚教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 18日 ~ 2026年 1月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日 ~ 2026年 1月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 29日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラム内容は、ベースとなる動きをもとに指導員によってやり方を変えながら利用児童が飽きずに参加できるようにしている。	毎回違う事をやるではなく、同じことを繰り返し行う事でできるようになることが増えたり、児童の自信に繋がるようにしている。	利用児童によってその場で難易度を変えながら、“できなかつた”で終わらないようにする。
2	指導員の人数が充実している。急な欠員があった場合は、協力してもらい人手が足らないようにすることができる。	児童発達支援・放課後等デイサービスの職員で、その日の子どもたちの様子を共有できる仕組みを整えている	児童発達支援から放課後等デイサービスの移行を見据え、支援内容の引継ぎや共通理解を深めていく。
3	子どもが安心感を持って通所している。	言葉以外にも、表情や行動から気持ちを汲み取り受け止めながら関わるようにしている。	言葉の表出が少ない児童も、自分の思いが伝わったと感じてもらえるように、小さなサインにも気づけるよう職員間で子どもについてしっかりと共有する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画作成を職員間で共有、話し合う場面が少ない。	しっかりとした時間が確保できていない。	話し合う時間を設ける。
2	保護者同士や地域の子どもたちとの交流の機会が少ない。	・本年度は、療育参加は実施できたが、懇談会の開催ができなかった。 ・保育園、幼稚園の訪問がなく交流を持つことができなかった。	・今後は、懇談会や保護者の皆様が気軽に交流できるような場面を提供できるよう、職員同士で話し合いをしていく。 ・保育園や幼稚園の訪問を通じて協力していただけるようお声をかけさせていただく。
3	定期的に発信しているおたよりやプログラムが、保護者の皆様に届いているのか分からず。	・ペーパーレス化に伴い、毎月のプログラム表やこばんだよりがHUGに移行したことから、手渡しすることがなくなり実際に見ててくれているのかが分からない。 ・SNSへの発信ができていない。	・HUGのサービス提供記録での告知や、直接口頭でも伝えます。 ・SNSでの発信を再開する。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら川口戸塚教室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 18日 ~ 2026年 1月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数)	38人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日 ~ 2026年 1月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数)	11人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者に二一 ズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイ サービス計画（個別支援計画）が作成されている。	毎年SM社会生活能力検査を実施し、保護者の二一 ズだけでなく児童の発達状況を踏まえた計画づくり をしている。	日々の活動の様子から支援計画を見直し、適切な 支援目標を改めて設定していく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こども の健康や発達の状況について共通理解ができるい る。	活動の様子を写真に収め、「サービス提供記録」に 文章とともに掲載している。	人手が足りず写真撮影ができない日もあるため、 職員の配置を見直していく。
3	こどもが安心感をもって通所している。	児童一人ひとりに声をかけ、温かい雰囲気づくりに 努めている。良いこと悪いことをメリハリをつけ て児童に伝えている。	小さなことでもできていることを認めて賞賛した り、課題に対して前向きに挑戦していくように プラスの声かけを意識しながら療育にあたってい く。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の 子どもと活動する機会が少ない。	他事業所と職員同士の交流がないことや、移動時に 必要となる車両を十分に確保できないため。	・土日や長期休暇中を利用して、公園や児童館など公共施設への外出の機会を増やしていく。 ・他教室との合同療育を試み、少しづつ関係構築を図っていく。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等によ り、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家 族への支援がされていない。	複数の開催日を設定して参加希望日を回答しても らったが、日程調整が難しく、参加人数も限られて しまった。	・保護者懇談会の開催を定期的におこなうよう に年間計画を作成する。 ・親子がいっしょに体験できるプログラムを企画し、 参加を呼びかける。
3	家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・ト レーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報 提供の機会等がおこなわれていない。	専門的な知識を持った職員がいないため、事業所単 独での研修会を開くことが難しい。	保護者懇談会の開催時にペアトレに関する映像を 見て学べる機会を用意していく。